

県内の景気動向

景況感全産業ベースで引き続き足踏み状態

先行きはわずかながらも改善見通し

2001.4月末調査

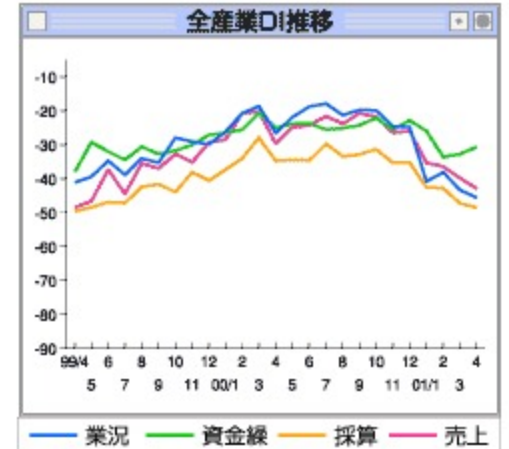
- 本調査の対象企業は県内の中小企業1000社
- 今回調査の有効回答企業数は455社
- 回答企業の業種別内訳
製造業204社・建設業50社・卸売業64社・小売業77社・サービス業60社

全産業

5月の調査結果（4月末時点）によると、3月末時点に比べ、全産業ベースでは資金繰りでわずかながらも改善を示したものの、売上・採算が4ヶ月連続でD I値を下げたことから、業況も2ヶ月連続で下げる結果となった。業況・採算・売上D Iはいずれもマイナス40を下回っており、景況感は引き続き足踏み状態にあると言える。業種別では、製造業でわずかながらも改善を示す一方、小売業では全項目で悪化となり明暗を分ける結果となった。

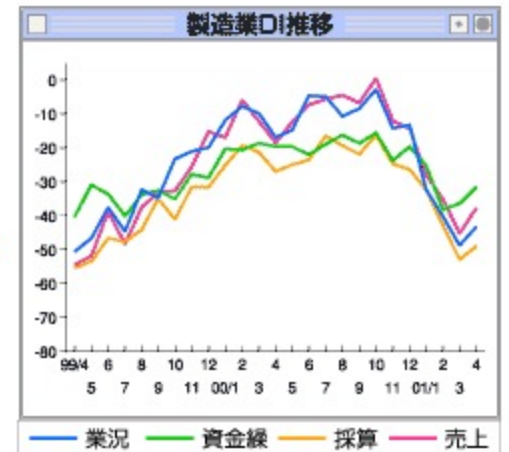
3ヶ月先の見通しでは、全産業ベースで業況・売上・採算・資金繰りともに依然としてマイナス30を下回っているものの、今月調査結果と比較するといずれもわずかに改善を予想する結果となり、先行きへの期待感の表れとみられる。

業況			売上			採算			資金繰り		
3月	4月	先行き	3月	4月	先行き	3月	4月	先行き	3月	4月	先行き
-43.3	-45.5	-36.7	-39.7	-42.9	-35.8	-47.2	-48.4	-40.2	-32.7	-30.6	-29.7



製造業

業況			売上			採算			資金繰り		
3月	4月	先行き	3月	4月	先行き	3月	4月	先行き	3月	4月	先行き
-48.7	-43.1	-34.3	-45.1	-37.7	-31.4	-52.8	-49.0	-37.3	-36.4	-31.4	-31.4



業況（-43.1）、売上（-37.7）、採算（-49.0）、資金繰り（-31.4）と、各項目とも大きなマイナス値となっており、依然として業況の厳しい企業が多数を占めている。しかしながら、昨年10月（業況-2.7）をピークに一貫して悪化傾向を示してきたが、各項目でわずかながらもD I値を上げる結果となり、今後の動向が注目される。

小分類でみると、「食料品」は全項目で改善を示し、業況では良化回答割合がゼロから11.8へ上昇した（D Iは-47.1）。「酒造」は設備操業率でプラスに転じる改善を示したが、資金繰りはマイナスに転じる悪化となった。操業率の上昇から今後の売上の増加が期待できる。「織物」は売上・採算・受注残高で良化回答割合がゼロになり、業況はわずかに悪化した。「ニット」は受注残高で全企業が悪化と回答し、その結果、設備操業率も悪化している。「縫製」は業況・売上・採算・資金繰り・受注残高で良化回答割合がゼロと非常に厳しい。「木材・木製品」は採算・資金繰りで良化回答が増加する等全項目で改善を示した。「印刷」も全項目で改善を示し、業況で良化回答割合がゼロから8.3へ上昇した。「窯業・土石」も全項目で改善、業況は前月並みもわずかにD Iを上げた。「鉄鋼・非鉄」は売上・資金繰りがわずかに悪化となり、業況では良化回答割合がゼロとなった。「金属」は全項目で悪化。中でも売上がマイナスに転じた結果、製品在庫も膨れ上がりマイナスに転じる悪化となった。「一般機械」も全項目で悪化となった。「電気機器」は製品在庫の増加が資金繰りを悪化させ、業況もわずかに悪化となった。「輸送用機器」は業況がわずかに改善も、全項目で良化回答がゼロになり厳しい状況に変わりない。「精密機器」は全項目で改善も、先行きは全項目で悪化となり、今後が危惧される。「漆器」は採算・資金繰りで改善を示すも、業況は全回答企業が悪化であった。「プラスチック」は売上がわずかに改善も、採算がわずかに悪化し、業況は前月並みとなった。

- 大型店誘致の市の行政に疑問あり。旧市内商店街見捨てるつもり？【食料品】
- 消費低迷で休日減らしても売上が伸びないという報道が業界現状を物語っているようだ。【食料品】
- 1カ月先が読めない状況です。
- 【縫製】
- 昨年と比べて受注面で少々良化した。他社工場も同じである。5～7月が我々の運命を決定する時期。【縫製】
- 木材業界は最悪です。
- 【木材・木製品】
- 業況、売上高とも悪化傾向にあり、従って資金繰りにも影響が多い。今しばらく状況を見て具体的対策に取り組まざるを得ない。
- 【鉄鋼・非鉄】
- H13年1～3月までは前年を上回りましたが、4月から客先の動きが鈍り生産が落ち始め、5月6月も悪い状態が予想されます。
- 【金属】
- 半導体業界は受注量30～40%ダウンとなり、設備投資は第1、第2四半期ともゼロの状況が続いており、先行きは不透明です。【一般機械】
- 今まで生産計画は原材料の確保に左右されてきましたが、いよいよ生産調整により今までの半分くらいになってしまい、大変困っております。【電気機器】
- 競争に勝つためには、サービスの向上を図ること。それにより人件費、材料費、外注費が増加するので利益が伸びない。【電気機器】
- 大変厳しいです（仕事の確保ができない）。【電気機器】
- さらなる空洞化の進行が日本経済の危機感を増幅。【精密機器】
- 昨年末より厳しい状況続く。今後の見通しについても「不透明」来春まで続く。【精密機器】
- 仕事量はあるのですが、価格が安すぎる。価格を上げると仕事がなくなる傾向にある。
- 【プラスチック】